別記様式１

令和３年度学長戦略経費（重点分野研究プロジェクト）実績報告書

（令和４年１月）

研究代表者氏名（所属・職名）	水上　丈実・教職大学院旭川校
プロジェクトの名称	道徳と総合のアクティブ・ラーニングの授業づくりの浸透 ―道北地方の卒業生へのフォローアップを目的に―
共同研究者氏名（所属・職名）	●水上　丈実・教職大学院旭川校・教授 藤川　　聡・教職大学院旭川校・教授

研究プロジェクトの概要

本プロジェクトは，教員養成機能における北海道の拠点的役割を果たし北海道の教壇に立っているたくさんの本学の卒業生の日々の実践に生かしてもらうため，フォローアップの一環として計画した。具体的には，アクティブ・ラーニングの授業づくりについての理論の研究・啓発を行うとともに，道北各地の優れた実践を紹介するための実践資料集を作成し道北の小中学校400校と道北の市町村教育委員会に配付する。特に，特別の教科となった道徳及びアクティブ・ラーニングの究極の姿となる探究的な学びが求められる「総合的な学習の時間」（以下，総合）の授業づくりについて，筆者らが教職大学院の授業で行っている理論を紹介するとともに，道北各地の優れた授業実践を集め，現在，教師に最も求められているアクティブ・ラーニングの授業力の向上に資することを目的とする。

達成度	２	←番号を記入	１　計画とおり達成した	２　概ね達成した
			３　あまり達成できなかった	４　全く達成できなかった

研究実績の概要

【令和３年度】

現在，各学校においては，新学習指導要領の全面実施に向けて教育課題が山積している。令和２年度から，小学校では新学習指導要領の全面実施となり，１年間のコンピテンシーベースでの教育課程の成果検証から，全面実施２年目の教育課程の実施方法を考えていかなければいけない。また，中学校では令和３年度から全面実施となることから，どのような教育課程を編成すべきかについて，小学校の接続発展を明確にし，15歳の義務教育のゴールを教育課程に位置付け，実践する説明責任を問われる１年となる。

更に，コロナウィルス感染症への対応が，それに拍車をかけている。本年１月に中央教育審議会は，『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して，全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと協働的な学びの実現』を答申した。この答申から読み解くことができるのは，新学習指導要領の着実な実施と GIGA スクール構想のように ICT の活用の促進である。

こうした中で，本プロジェクトでは，教職大学院旭川校の授業開発分野の授業「学びとカリキュラム」「教科教育の実践と課題」「指導と評価の実践的展開」「総合的な学習の時間を創る」「授業づくりの実際」「道徳教育の諸理論と授業づくり」「教材開発・教材研究の方法と実践」「授業研究の理論と実際」の中で教示しているアクティブ・ラーニングについての考え方を整理し理論化する。令和元年度は，「特別の教科　道徳」の授業づくり，令和２年度は「総合的な学習の時間」の道内の質の高い実践について紹介していった。最終年度である令和３年度は，道徳科，総合的な学習の時間という１教科・１領域にとどまらずに，他教科・他領域との関連や教科横断的な視点を持って実践をしている道内の小中学校と連携し，その理論に基づいて様々な授業実践を分析し，それらをまとめたものを実践集として道内の小中学校に配付することでフォローアップの一助としたい。

筆者は，北海道教育委員会の各種研究指定校に招かれ授業参観，授業への助言，講演を行うことが多い。そこでは，アクティブ・ラーニングの授業づくりについて、学校一丸となって取り組んではいるものの，効果的な実践には至らない状況が見受けられる。その要因の一つに，急激な教育改革の中で，やらなければならないことが多すぎることがあげられる。具

体的には，特別の教科道徳の実践，外国語科の授業づくり，プログラミング教育の実施，その他，新学習指導要領の全面実施に伴う教育課程編成などが考えられる。加えて，働き方改革の実施が，それらに取り組む時間の捻出を困難にしている。その中で，じっくりと子どもと向き合い，この授業で「主体的とは，対話的とは，深い学びを実現するには」と考える研修の時間を確保するのもままならない状況にある。

中央教育審議会の審議の経過や答申を見ても，コンピテンシーベースのアクティブ・ラーニングの授業づくりには，多種多様な理論的背景があることが分かる。一つは，ある特定の文脈における要求に対して,個人の内的属性を結集して応答する「統合的・文脈的アプローチ」による授業づくりである。二つ目は,能力をいくつかの要素に分割したうえで，特定の職務を表すコンピテンシー・モデルを組み立てる「要素的・脱文脈的アプローチ」に基づいた授業づくりである。また，三つ目には，まだコンテンツベースから脱却できない授業づくりも残っている。こうした流れは，中教審のワーキンググループの審議の中では論議されているものの学校現場には下りてきていないのが現状である。

そこで，本学の卒業生や本教職大学院の修了生のフォローアップ，ひいては道北地方の教壇に立つ教師の資質向上に資するべく「道徳と総合のアクティブ･ラーニングの授業づくり」についての理論と質の高い授業実践の浸透を目的としたい。

幸いにも旭川校教職大学院の修了生は100名を超え,道北の学校現場ですでに管理職になっている者，指導主事として指導的な立場で活躍している者，各学校で主幹教諭・教務主任・研修部長などのミドルリーダーとして活躍している者がおり，連携を図りやすい状況にある。その利点を生かして，更に，修了院生のネットワークも活用しながら，このプロジェクトを充実・発展させていきたい。なお，北海道教育委員会や旭川市教育委員会にも周知し，後援をいただきながら，プロジェクト研究を推進していく。

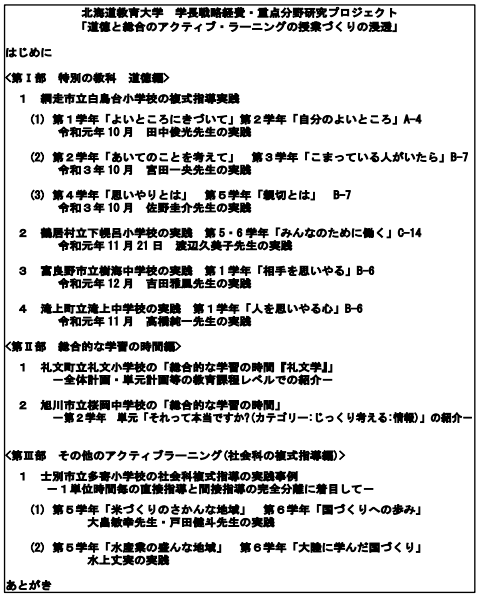
アクティブ・ラーニングに関する理論や実践が掲載されている書籍・文献は多数発刊されているが，自校の児童生徒の実態や自らの授業力にあったものは少ない。道内の学校現場に焦点を当てることで，活用できる価値のある実践集となると考えている。

本プロジェクトは，旭川校教職大学院の授業開発分野担当教員２名で行う。研究の役割分担は以下の表の通りである。

表１　本プロジェクトの研究分担と3年次目の連携校

	氏　名	分　担
研究代表	水上　丈実（教授）	研究計画立案，理論構築（道徳）,連携校との調整 実践（道徳・総合）のまとめ分析
研究分担	藤川　　聡（教授）	理論構築（総合），実践のまとめ分析（総合）
連 携 校	礼文町立礼文小学校㊐，旭川市立桜岡中学校㊐，網走市立白鳥台小学校㊐， 鶴居村立下幌呂小学校㊐，富良野市立樹海中学校㊐，滝上町立滝上中学校㊐ 士別市立多寄小学校㊐	

３年次(令和３年度)は，先に述べたように，他教科・他領域と関連させ，教科横断的に道徳や総合的な学習の時間の実践を行っているカリキュラム・マネジメントのレベルでの実践を集約していかなければならないことから，各学校の教務主任や研究主任(研修部長)と連携を図り，質の高い実践を紹介していきたい。また，北海道の特質であるへき地・小規模校のレベルでのアクティブ・ラーニング，とりわけ，複式指導においてアクティブ・ラーニングを実現することは難しい。そこで，令和3年度はへき地・小規模校に特化したアクティブ・ラーニングに焦点を当てて,「へき地・小規模校の授業実践事例集」としてまとめた。コロナ禍ではあったが，水上が研究している新しい形の複式指導については実践することができたので，それも加え，発刊することができ


北海道教育大学　学長職略経費・重点分野研究プロジェクト
「道徳と総合のアクティブ・ラーニングの授業づくりの浸透」

はじめに

<第Ⅰ部　特別の教科　道徳編>

1　網走市立白鳥台小学校の複式指導実践

(1) 第１学年「よいところにきづいて」第２学年「自分のよいところ」A-4
令和元年 10 月　田中俊光先生の実践

(2) 第２学年「あいてのことを考えて」　第３学年「こまっている人がいたら」B-7
令和３年 10 月　宮田一央先生の実践

(3) 第４学年「思いやりとは」　第５学年「親切とは」　B-7
令和３年 10 月　佐野生介先生の実践

2　鶴居村立下幌呂小学校の実践　第５・６学年「みんなのために働く」C-14
令和元年 11 月 21 日　渡辺久美子先生の実践

3　富良野市立樹海中学校の実践　第１学年「相手を思いやる」B-6
令和元年 12 月　吉田雅晨先生の実践

4　滝上町立滝上中学校の実践　第１学年「人を思いやる心」B-6
令和元年 11 月　高橋純一先生の実践

<第Ⅱ部　総合的な学習の時間編>

1　礼文町立礼文小学校の「総合的な学習の時間『礼文学』」
―全体計画・単元計画等の教育課程レベルでの紹介―

2　旭川市立桜岡中学校の「総合的な学習の時間」
―第２学年　単元「それって本当ですか?(カテゴリー:じっくり考える:情報)」の紹介―

<第Ⅲ部　その他のアクティブラーニング(社会科の複式指導編)>

1　士別市立多寄小学校の社会科複式指導の実践事例
―１単位時間毎の直接指導と間接指導の完全分離に着目して―

(1) 第５学年「米づくりのさかんな地域」　第６学年「国づくりへの歩み」
大島敏幸先生・戸田健斗先生の実践

(2) 第５学年「水産業のさかんな地域」　第６学年「大陸に学んだ国づくり」
水上丈実の実践

あとがき

図１　授業実践事例集の目次

た(2月14日刊行予定)。残念ながら，授業実践を直接参観することができなかったため，実際の連携校の授業を録画し，北海道教育大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻(教職大学院)旭川キャンパス授業開発研究室ホームページに掲載することはできなかったが，水上自身が士別市立多寄小学校で実践した授業については，現在，編集作業中である。本学のへき地・小規模校教育研究センターのHPにも掲載していただけることになっている。

研究成果の公表実績

【著書】

1 「へき地・小規模校の授業実践事例集-特別の教科道徳・総合的な学習の時間，そして，社会科複式指導のアクティブ・ラーニング-」あいわプリント(2022年2月15日)

2 2021年度教職大学院第2クォーター授業「道徳教育の理論と実践」8週分の授業資料(水上丈実)

3 2021年度教職大学院第3クォーター授業「校種間接続カリキュラム構築の理論と実践」8週分の授業資料(水上丈実)

4 2021年度教職大学院第4クォーター授業「地域性を生かした総合的な学習」8週分の授業資料(玉井康之,水上丈実)

【学術論文】

※2022　へき地教育研究第 77 号に掲載予定

「アクティブ・ラーニング実現のための 1 単位時間毎の直接指導と間接指導の完全分離に着目した社会科複式指導の実践-士別市立多寄小学校での授業実践を通して-」

【学会発表】

1　北海道へき地複式教育研究連盟役員研修会にて,水上が2021年5月7日に「今後求められるへき地・小規模校教育の在り方」と題してオンラインで講演(道へき複連役員約50名)

2　第45回上川へき地・複式教育研究連盟「経営研修会」にて,水上が2022年1月14日に「今後求められるへき地・小規模校教育の在り方」と題してオンラインで講演(上川管内の校長･教頭約100名)

3　北海道教育委員会中堅教諭等オンデマンド研修で「カリキュラム･マネジメントの充実を目指して」と題して，2021年8月1日から動画配信(北海道内の中堅教諭等研修対象者669名が視聴)

〈構成〉 (1)　カリキュラム・マネジメントの必要性
(2)　カリキュラム・マネジメントの実際
(3)　今後求められるカリキュラム・マネジメントとアクティブ・ラーニング

【普及啓発イベント、セミナー、研修会等】

1　上川教育研修センター「道徳科指導講座」にて,水上が2021年7月29日に上川教育研修センターで「児童生徒の道徳性を高める道徳授業の在り方」と題して講演(受講者約50名)

2 オホーツク管内6研究団体による合同秋季研修会にて,水上が2021年10月30日に網走小学校からオンライン配信で「授業づくりと人材育成」と題して講演(参加者約100名)

3 網走市立網走小学校授業づくり研修会にて,水上が2021年12月3日に網走小学校にて「単元で身に付けさせたい力を明確にした授業づくり」と題して講演(参加者約120名)

4 旭川市社会科教育研究懇話会2月研修会にて,水上が2022年2月26日に旭川市立高台小学校で「1単位時間毎の直接指導と間接指導の完全分離に着目した社会科複式指導の実践」と題して研究発表(研修会参加者約30名)の予定

【研究成果の紙媒体、報告書、研修資料等】

1 「へき地・小規模校の授業実践事例集-特別の教科道徳・総合的な学習の時間，そして，社会科複式指導のアクティブ・ラーニング-」あいわプリント(2022年2月15日)発行部数600冊(道内のへき地複式校・北海道教育委員会と各教育局，全国へき地教育研究連盟)

【関連URL】

北海道教育大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻(教職大学院)旭川キャンパス授業開発研究室に掲載予定　https://jugyo-asahi-hue.jimdofree.com/